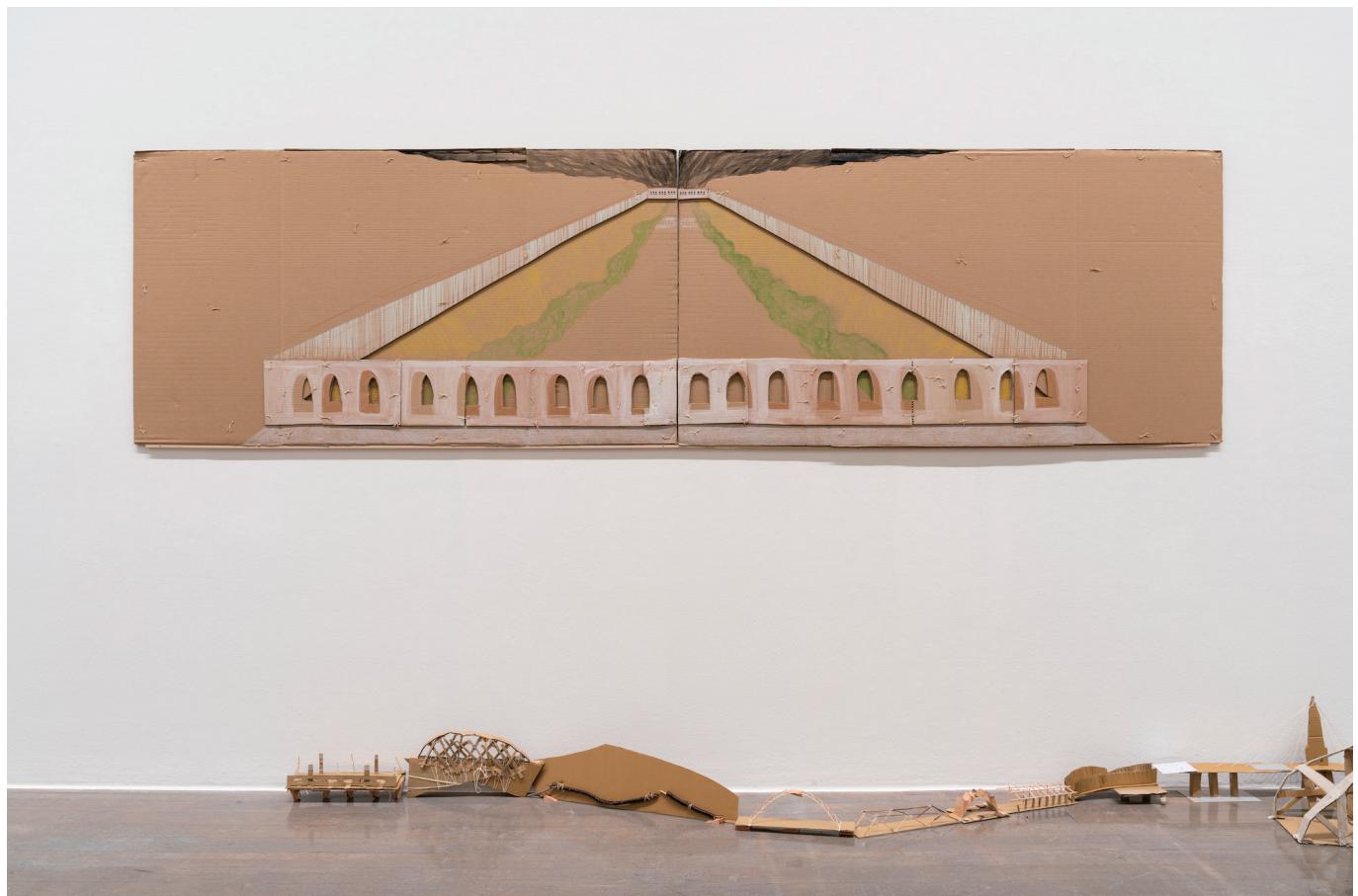


開館5周年記念

「日比野克彦 ひとり橋の上に立ってから、だれかと舟で繰り出すまで」開催告知



《私が初めて立ち止まつたのは薺場の橋の上ででした》 2002 撮影：加藤健 写真提供：水戸芸術館現代美術センター

八戸市美術館では、2026年4月18日(土)～9月23日(水・祝)まで、企画展「日比野克彦 ひとり橋の上に立ってから、だれかと舟で繰り出すまで」を開催いたします。

また、展覧会に関連し、公募のプロジェクトメンバー(アートファーマー)とともに、岐阜にある日比野の個人倉庫に長らく眠っていた作品を公開で調査する「KAIKON プロジェクト」も実施いたします。

1月11日(日)には、プレイベントとして、日比野によるアーティストトークも開催いたします。

お問い合わせ先

八戸市美術館 031-0031 青森県八戸市大字番町10-4 TEL | 0178-45-8338(代表番号) FAX | 0178-24-4531
E-mail | art@city.hachinohe.aomori.jp 八戸市美術館公式 HP | <https://hachinohe-art-museum.jp>
担当 | 高橋、平井



展覧会概要

企画名称	開館5周年記念「日比野克彦 ひとり橋の上に立ってから、だれかと舟で繰り出すまで」
展覧会会期	2026年4月18日(土)～9月23日(水・祝)
会場	八戸市美術館
開館時間	10:00～19:00(最終入場18:30)
休館日	火曜日(5月4日、8月4日、8月11日は開館)、5月7日、8月5日、8月12日
観覧料	一般1,000円、大学生・専門学校生500円、高校生以下無料
各種割引等	<ul style="list-style-type: none"> ・団体割引(20名以上の団体) 一般800円、大学生・高校生400円 ・有料駐車場ご利用の運転手1名につき団体彩金適用 ・障害者手帳をお持ちの方とその付添者1名、八戸市内および近隣町村(三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町)在住の65歳以上の方は観覧料の半額 ・フリーパス[かおパス] 一般1,500円、大学生・専門学校生750円(本展覧会に限り何度でもご覧になれます。各種割引との重複不可。) ・無料観覧デー 5月1日(金)
主催	八戸市美術館
協力	株式会社Ballen、ヒビノスペシャル
企画協力	水戸芸術館現代美術センター
後援	八戸市教育委員会、青森放送、青森朝日放送、青森テレビ、八戸テレビ、デーリー東北新聞社、東奥日報社、エフエム青森、コミュニティラジオ局BeFM
会場構成	佐藤慎也
担当学芸員	高橋麻衣、平井真里

プロフィール



日比野克彦
Katsuhiko HIBINO

1958年岐阜市生まれ。1984年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程デザイン専攻修了。大学院在学中にダンボールを素材に制作した作品で注目を集め、1982年日本グラフィック展大賞受賞。以降、1995年ヴェネツィア・ビエンナーレなど国内外で多数の展覧会に出品するほか、舞台美術や芸術祭のプロデュースなど、多岐にわたる分野で活動。近年は、地域の参加者と地域の特性や関係性、人びとの個性を生かしたアートプロジェクトを数多く行う。2015年からは障害の有無、世代、性、国籍、住環境などの背景や習慣の違いを超えた多様な人々の出会いによる相互作用を表現として生み出すアートプロジェクト「TURN」を監修。2017年から「アート×福祉」をテーマに「多様な人々が共生できる社会」を支える人材を育成するプロジェクト「Diversity on the Arts Projects(通称:DOOR)」を監修。第66回芸術選奨芸術振興部門文部科学大臣賞受賞。現在、東京藝術大学長、岐阜県美術館館長、熊本市現代美術館館長、日本サークル協会参与。



展覧会について

日比野克彦は幼い頃、予期せず一人ぼっちになった時、橋の上で初めて「ひとり」を実感したと言います。そして、絵を描くのは「だれかと」会いたい、コミュニケーションしたいからだと語ります。本展は「ひとり」から「だれかと」へ、つながりを求めていく日比野による活動の変遷を生立ちから現在まで辿ります。

1980年代前半、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程デザイン専攻に在籍していた日比野は、ダンボールを素材にした作品でイラストレーションの概念を拡張し、立て続けに公募展の大賞を受賞して一躍時代の寵児となりました。しかし、日比野の活動を俯瞰する時、80年代はアーティストとしてのキャリアの一段階にすぎません。90年代には自らと向き合い、形のないものの表現を模索し、2000年代には関係性を探求するアートプロジェクトへと大きく舵を切りました。2010年代以降は美術館の館長、2020年代はさらに大学長という役割を担いながら、美術を福祉、医療などと掛け合わせ、時に行政や企業とも連携して社会に結びつける実践を精力的に行っていきます。本展はそれらすべてをアーティスト日比野による芸術実践と捉える観点から編まれたものです。

本展ではいくつものフィールドを横断しながら縦横無尽に活躍する日比野を、アーティストとして形成された過程を起点に、関わる人びとの視点を通して深掘りし、絵本や漫画を取り入れてエピソードを織り交ぜながら紹介します。手つきや振る舞い、姿勢に着目することで、必ずしも形や物として残らない2000年代以降の活動も含め、日比野の拡張してやまない芸術実践に通底するものを探ります。



「日比野克彦 ひとり橋の上に立ってから、だれかと舟で繰り出すまで」2025年 水戸芸術館現代美術ギャラリーでの展示風景
撮影：加藤健 写真提供：水戸芸術館現代美術センター



KAIKON プロジェクトについて



展覧会に関連し、岐阜市にある日比野の個人倉庫で長らく眠っていた作品を、八戸市美術館に運び込み、公募のプロジェクトメンバーである「アートファーマー」とともに梱包を開けて作品を調査し、作品と出会ったドキドキやワクワクを、さまざまな人たちと分かち合う新たなプロジェクト「KAIKON プロジェクト」が始まります。

未知の土地を「開墾」するかのように、作品を「開梱」しながら、作品との出会いを楽しみましょう！

【イベント】

日比野克彦 アーティストトーク

「KAIKON プロジェクト」の仕掛け人であるアーティストの日比野克彦によるトークイベントを開催します。作品をつくること、そして残すことを、アーティスト自身の想いとともに語ります。

日時 | 2026年1月11日(日) 14:00-15:30

会場 | 八戸市美術館ジャイアントルーム

ゲスト | 日比野克彦(アーティスト・東京藝術大学学長)

参加方法 | 無料(要事前申込)

申込方法 | 美術館HP内の問い合わせフォームに氏名・連絡先・参加人数を記入し、お申込みください。

定員 | 80名(先着順) **※申込者多数のため、定員を増やしました。**

その他 | 「KAIKON プロジェクト」に参加を希望されない方も、トークのみお聞きいただけます。



プロジェクト詳細

・I期[ラーニング] 2026年2月22日(日)-4月12日(日)

第1回 プロジェクトキックオフ 【参加必須】

日時 | 2月22日(日)14:00-16:00

会場 | 八戸市美術館 ワークショップルーム

内容 | 活動内容やスケジュールの説明、メンバーの自己紹介などを行います。

ゲスト | 日比野克彦 ※オンライン出演

第2回 作品を守ること

日時 | 3月1日(日)14:00-16:00

会場 | 八戸市美術館 スタジオ

内容 | 保存科学の立場から、作品を残すことについて伺ったあと、実際に作品を調査します。

ゲスト | 田口智子(東京藝術大学未来創造継承センター特任准教授、副センター長)

第3回 作品を未来に伝える

日時 | 3月15日(日)14:00-16:00

会場 | 八戸市美術館 ワークショップルーム

内容 | 作品の情報をどのように残していくか、実践を交えながらお話を伺います。

ゲスト | 渡辺龍彦(編集者、『日比野克彦 ひとり橋の上に立ってから、だれかと舟で繰り出すまで』図録編集)

第4回 プロジェクトスペースづくり

日時 | 4月12日(日)14:00-16:00

会場 | 八戸市美術館 ジャイアントルーム

内容 | 4月18日以降の活動本格化に向けて、スペースの設営を行います。

・II期[実践] 2026年4月18日(土)-9月23日(水・祝)

活動日 | 毎週2回(平日1回+土日1回)を予定 (※詳細は参加者と調整して決定します。)

内容 | 作品の梱包を開けて、作品の情報(サイズや状態)や作品と出会った時の気持ちを書き込んだプロジェクトの記録「KAIKON 史」をつくりていきます。あわせて、開けた作品を展示し、紹介していきます。

・参加方法

参加条件 | 高校生以上 / I期のラーニングに3回以上参加できる方(第1回は参加必須) / II期の実践に毎月2回以上参加できる方 / 活動の連絡をLINEで行うことができる方 (プロジェクトメンバー用LINEグループへの参加必須。学生の方は保護者の登録可。)

定員 | 15名程度

参加方法 | 無料・要事前申込

申込方法 | 問合せフォームよりお申込ください。

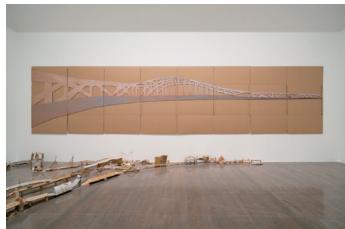
申込締切 | 2月21日(土)



広報用画像



a



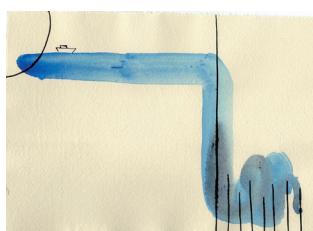
b



c



d



e



f



g



h



i

[キャプション]

- a,b 「日比野克彦 ひとり橋の上に立ってから、だれかと舟で繰り出すまで」 2025年 水戸芸術館現代美術ギャラリーでの展示風景
撮影：加藤健 写真提供：水戸芸術館現代美術センター
- c 『私が初めて立ち止まったのは萱場の橋の上ででした』(2002) 撮影：加藤健 写真提供：水戸芸術館現代美術センター
- d 『オートバイ』(1984) 撮影：加藤健 写真提供：水戸芸術館現代美術センター
- e 「わたしはちきゅうのこだま」(2020)より 写真提供：HIBINO SPECIAL
- f 「消える時間」『うごき』(1993) 撮影：富岡誠
- g 「明後日新聞社文化事業部」(2003-) 2003年の様子 写真提供：HIBINO SPECIAL
- h 「こよみのよぶね」(2006-) 2021年の様子 撮影：日比野克彦
- i キャプション不要

広報用画像をご希望の方は、【1.会社名／組織名、2.媒体名・媒体の種類(雑誌、テレビ、webなど)、3.ご担当者名、4.ご連絡先、5.掲載／放送予定日、6.画像到着希望日、7.ご希望の写真が掲載されているプレスリリースの発行日、8.ご希望の写真記号】をメール、またはFAXに明示の上、下記、お問い合わせ先までご連絡ください。

[画像の貸出条件]

- 画像は本企画・美術館の紹介の目的のみにお使いいただけます。
- 画像データは第三者へ譲渡せず、使用後すみやかに消去してください。
- 画像のトリミングについては事前にご相談ください。
- 作品画像の上に図や文字を重ねることはできません。
- 画像を掲載、放送する際には、指定のクレジット表記を必ずいれてください。
- 画像を掲載、放送する前に、ゲラ等掲載案をお送りください。担当者が確認します。
- 新聞紙、雑誌、書籍等の印刷物に画像を使用する際は、八戸市美術館に1部ご寄贈ください。

お問い合わせ先

八戸市美術館 031-0031 青森県八戸市大字番町10-4 TEL | 0178-45-8338(代表番号) FAX | 0178-24-4531
E-mail | art@city.hachinohe.aomori.jp 八戸市美術館公式 HP | <https://hachinohe-art-museum.jp>
担当 | 高橋、平井